after the bright sunset. The full moon soon followed it. A social factor has thus delayed the start of their roosting flight, about 30 minutes, 1.000 Lux.

本州における 1959~60 年冬の白鳥の数多渡来 A heavy migration of swans in the winter 1959-60. 山 階 芳 麿 Yoshimaro Yamashina

筆者のところに 1959~60 年冬期に白鳥が渡来したという報告のあった県は次の 13 県である：北海道、青森県、秋田県、岩手県、福島県、新潟県、茨城県、石川県、静岡県、滋賀県、島根県、福岡県、宮崎県。以上の内秋田県本荘のものはハクチョウ *Cygnus columbianus jankowskii* Alpheraky である事が青木菅治氏の写真にて明らかである。又村本義雄氏によると石川県邑知潟へ来た 11 羽の内 3 羽はハクチョウで他はオオハクチョウであったという。その他のものは恐らく大部分オオハクチョウ *Cygnus cygnus* (Linné)であろう。

1959~60 年の冬季には以上の如く例年になく多くの白鳥が本州に渡来した。有名な新潟県水原の瓢湖について見ても例年 40~50 を普通とするのにこの冬は例年より多かったのみならず、2 月 8 日に新に 152 羽の大群が舞い下りて、総数 270 羽となった。これは昭和 25 年以来の最高であると云う。三上士郎氏からの通信に於ても青森県下の湾や湖沼は到るところに白鳥が渡来し、近年にない多数の渡来であるという。最近 (4 月 10 日) の朝日新聞の通信によるとその内浅所の海岸に居た幼鳥の小群は附近浅所小学校 4 年生の“白鳥学級”が観察中に与えたジャガイモ・トウキビ・リンゴなどに馴れて岸近くまで来てこれを食するようになったという。第二の瓢湖の誕生で、面白い事である。

概して云えば例年多く渡来する地方では地方の人たちが白鳥に親しんで居るので、密猟の被害がなかったが、例年来なかった地方では密猟による銃殺又はモチ縄による密猟が多かった。前記渡来県名の少なからざる部分が、密猟による発見であるのは残念な事である。但し秋田県本荘市や島根県海士村 (隠岐島)、石川県 邑知潟のように土地の人々から大切に保護を受けたところもある。このようなところでは来年も渡来が期待できよう。

最後に本年本州に特に多くの白鳥が渡来した原因であるが、北海道の斉藤春雄氏によると北海道東部の気候が今冬特に寒く、そのために例年白鳥が多数越冬する湖沼が悉く氷結したので、それ等の白鳥が西南方向に移動した為めであろうという。斉藤氏によると当時北海道の西南部に於て餓死した白鳥や空腹によって動けなくなって捕えられた白鳥が多く報告されたという。

The author received reports of the occurrence of swans from 13 prefectures during the winter, 1959-1960. Such a heavy migration of swans, *Cygnus cygnus*

with few definite records of *C. columbarius jankowskii*, has never been known. According to Mr. H. Saito of Hokkaido, all the lakes where swans frequent froze in this particularly severe winter there and swans were observed moving SW.

Some were caught weakened by hunger, while in Aomori, such swans were tamed by artificial feeding.

岩手県における白鳥渡来記録 Records of swans from Iwate 山 本 弘 Hiromu Yamamoto

岩手県内に於けるハクチョウ類の渡来記録を、過去にまで遡って報告する。先ず地域別に整理した一覧表〔第1表〕を掲げ、後に説明を加える。種別を確認し得たものは表中の種の欄に○、ほぼ確実なものには？を附し、全く不明な場合は空白のままにした。成幼の別・羽数等も是れに準じた。

岩手県（左）及び宮古附近（右）